

一 世界情勢 運動方針大綱

一九二八年世界の永遠的繁栄を誇った世界資本主義の最も強力なアメリカの株式恐慌は、各国資本主義の恐慌を益々深め、今や全くの危機に迫り詰らぬに至り、如何に有能なブルジョア政治家の手腕によつても、経済恐慌打開に何等の効果をも、擧げることを得ず、ばかりか一日と恐慌を鋭くしてゐる。斯の米國ルーズベルト大統領の農業政策、産業復興法等の経済恐慌打開策は、新経済政策だとして世界資本主義の注意を喚起することは出来たが、アメリカには依然として志士三十五万の失業者（アメリカ労働同盟発表）は街頭にあふれてゐる。亦各国資本主義はインフレーション政策、関税引上げ等、凡ゆる方法を盡こしく、恐慌を緩和せんと焦燥してゐるが、更らに効果なく、労働者農民一般労働大衆の生活は飢餓と衰弱との状態をとり、**斯の如く経済恐慌の深化は、**
一九三三年に於ける政治不安を擧げるならば、キエフにはアメリカ資本主義反対の革命運動が起り、日支停戦が決つせられはしたが、兩國間に於ける暗雲は去らず、インドに於ける反英國民運動は下火になつた観はあるが、これも期限付休戦である。尚ほ欧州には、アイルランドにドイツを中心とする國境に不安な情勢が統けられてゐる。
殊に三月、日本の國際聯盟の脱退、続いでドイツの脱退は、世界の不安を一層増大に至り、其の結果はドイツを中心と英佛、オランダ、ポーランド、スイス、オーストリアの対立が鋭化し、東洋に於ては、



ラの幕僚がヒットラー独裁の政府を倒せと斗争に起ち上り、キエフの土人労働者は米國人の経営する製糖工場を占領し（九月十三日）、シヤムには兵士が斗争に起ち（十月十日）、殊に支那中國、即ち揚子江の中流區域、江蘇、浙江を中心とする六十餘縣の労働者農民は、資本主義國の先鋒介石を打倒せよ、帝國主義國を倒せと斗争をつづけ、一般労働大衆の支持を歩一歩と獲得してゐる。
一九二八年は資本主義諸國が恐慌を深めつつある時、オーストリア、ソビエト、ロシアでは、其の年の十月から、五ヶ年計画の實行にかり、計画費一千百六十億ルーブル（一マルクは一月三毫四厘）は、全部國內から捻出し、而かも、五ヶ年計画は四年で完成するに至り、今や第三次五ヶ年計画の二年目を迎へてゐる。では、第二次五ヶ年計画は如何に進行されたであらうか。
重要な計画事業は、工場、発電所、大運河、鉄道、集田農場の経営、自動車、重工業機械化